

背骨の放射線治療を受ける方へ

気になること、不安なことがあれば我慢せずにスタッフにご相談ください。

1.治療中の体の変化について

① 胸部

放射線治療期間の後半から終了後数ヶ月の間に炎症が発生して、**咳、微熱、息苦しさ**を感じることがあります。すぐに医師や看護師に伝えてください。

② 治療範囲の皮膚痛み、発熱

治療範囲の皮膚が赤くなったり、熱を持ったり、かゆくなったり、乾燥、日焼けしたようになることがあります。

③ 気分の変化

放射線により、乗り物酔いのような**頭痛やめまい、吐き気**などの症状が出ることがあります。一時的なものです。我慢せず、スタッフにご相談ください。また**けいれん**の起こる可能性があります。

④ 痛みの増強

放射線による炎症により、一時的に治療範囲に**痛み、発熱**がでることがあります。

⑤ 食道

炎症が発生して、ひりひりする感じ、**飲み込みづらい**感じがすることがあります。

⑥ 腸

炎症が発生して、**下痢**が起こりやすくなります。

⑦ 骨髄抑制

免疫機能が低下しやすくなります。

2.日常生活での注意事項について

① もし身体につけた印や体内に入れた金属(マーカー)は毎日同じ部位に放射線を当てるための大切な印です。お風呂に入ってもよいのですが、印がついた部分や金属の入ってる部分の周りは強くこすらないように気をつけてください。もし、印が消えても自分で書き足さず、スタッフにお伝えください。

② できるだけ**水分の多い食べ物**(おかゆ・おじやなど)をとりましょう。食事はよく噛んでから、飲み込みましょう。

③ 治療中、次のものは口の粘膜を傷つけるおそれがあるので、**絶対に控え**ましょう。

酒・タバコ・辛いもの・固いもの・熱すぎたり冷たすぎるもの・酸味の強いもの(梅干し・みかん・レモンなど)

④ うがいを頻繁にして、**口の中を清潔**にしましょう。

⑤ 入浴や体を洗うときはぬるま湯を使い、刺激の少ない石鹸で優しく洗いましょう。

⑥ 髪の毛を染めたり、パーマをあてることは控えましょう。

⑦ 衣服が刺激になるためにゆったりとした服を着るようにしましょう。

⑧ 発熱、咳、下痢、下血など体調管理に気をつけてください。

治療終了後

- ・数週間から数ヶ月後

皮膚、粘膜の炎症による発赤や潰瘍で痛みが出ることがあります。

- ・数ヶ月から数年後

周囲に壊死や浮腫、血管の閉塞が起きることがあります。

頸部、口腔、鼻腔などの場合では粘膜、皮膚の潰瘍、骨壊死等が起きる可能性が有ります。

- ・10年以降

放射線が当たった部分に、髄膜腫や脳腫瘍が出来たとの報告がありますが、これらが発生する可能性はきわめて低いです。(0.01%程度)

重症化することもありますので、治療後も定期的に診察を受けて下さい。

宇都宮セントラルクリニック

放射線治療センター

TEL 028-657-6700

FAX 028-657-6702

(平日 9時～16時30分)